

第三者継承で新規就農

就農後3年でアイスクリーム販売を開始

てしかが
牧之瀬牧場 牧之瀬佳貴さん・智子さん(弟子屈町)

牧之瀬ご夫妻

【組織等の概要】

- 経営主: 牧之瀬 佳貴
- 経営面積: 100ha (放牧地20ha、牧草地80ha)
- 飼育頭数: 90頭 (経産牛50頭、未經産牛40頭)
- 生乳生産量: 年間450t (1頭当たり平均9,000kg)

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ カナダの大学で出会い、卒業後結婚し、千葉県に居を構え東京に通勤。第1子出産がワークライフバランスを見直すきっかけになる。
- ◆ 北海道物産展で開催していた就農相談窓口で新規就農の話聞き、その後全国規模の就農相談会に参加し、弟子屈町に移住することを決意。
- ◆ 弟子屈町への就農の決め手は、美しい自然があり、生涯に渡り住み続けたいと思えたため。
- ◆ 平成28年8月から、弟子屈町内の牧場で研修を開始。平成29年5月から、第三者継承予定の牧場で研修。平成30年4月に牧場を譲り受け新規就農。
- ◆ ホルスタイン種の他に、ブラウンスイス種、ジャージー種を導入し、昼夜放牧酪農を行う。
- ◆ 令和3年7月アイスクリームの製造販売を開始。

【取組の成果】

- 家族との時間も増え、ワークライフバランスを考慮した働き方をすることができた。
- アイスクリームは、1頭のブラウンスイス種(製造最低ロットに満たない場合は2頭)の生乳しか使用しない製造方法で差別化を図り、好評である。

【活用した支援施策】

- JA 新規就農支援金
- 農業次世代人材投資事業(準備型)



原料となる生乳を生産するブラウンスイス種



カチカチの食感にこだわったアイスクリーム



商品と個体識別番号を掲載したチラシを同封

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 異業種からの新規就農や研修期間中の生活費の不安。
⇒ 国や北海道、町やJAの支援制度や補助事業があったため、就農前の研修や生活費の心配はなく、研修中は周りのサポートがあり、不安がやる気になった。
- 妻の出産(第3子)時に、人手が足りなくなった。
⇒ 英語や中国語が堪能な夫妻は、SNS等で国内外からファームステイ希望者を募集し、人手を確保。
- 労働時間や生活スタイルを変えずに副収入を得る方法を模索。
⇒ アイスクリーム販売を開始。製造は管内の業者に委託することで、労働時間の変化はなし。

【今後の展望】

- 離農した跡地を借り上げ、地域の農地を維持管理。
- 搾乳頭数は同規模のままで、作業効率を上げるために、新しい牛舎の建設。
- 実労働時間を縮小し、収益向上させるシステムを構築。
- 肉用牛の飼育販売。
- 役員を務める酪農ヘルパー利用組合の雇用条件を見直し酪農ヘルパーを増加。